４－３　ｅラーニングによる教育支援の振興及び推進

＜事業計画＞

平成２３年度にとりまとめた、未来に立ち向かっていく志を持つ若者にイノベーションにつながる能力をネット上で支援する構想「知の探求・協同学習サイバー・コンソーシアム」について、アンケートを参考に構想内容の詳細化、具体化の検討を年次計画で進める。例えば、大学教育との関係、教育上のメリット、学習課題の選定、学習者選定の仕方、学習支援者の確保、討論型学習の仕組み、教育のクラウドのイメージ、学習成果の発表・公表の仕組み、学習成果の評価方法、パイロット事業の試行、運営財源の見通し、受講料の無料化などの課題について、見直しを含め研究する。研究の成果は、年次ごとにインターネットで公表する。

＜事業の実施結果＞

「知の探求サイバー協同学習支援委員会」委員を全面的に改めて再度発足し、平成２３年度にとりまとめた「知の探求・協同学習サイバー・コンソーシアム」構想の意識合わせを行い、計画について意見交換した。

知の探求サイバー協同学習支援委員会

平成２６年１月２０日に委員会を開催し、５名が出席して、以下の通り検討した。

（１）「知の探求・協同学習サイバー・コンソーシアム」構想の意義確認

国、社会の発展に主体的に取り組むことに志を持つ若者を育成するため、ネット上で有識者から知見や助言を提供し、解がない課題の解決を目指して討論型の学習を行い、その成果を社会に発信してイノベーションに関与できる能力の育成支援を目的としている。

未来に立ち向かう意欲のある大学生、３０才までの社会人を選考し、ネット上での学びのフォーラムを通じて分野横断型の学習を展開し、テーマに応じたＰＢＬをネット上に構成し、チームによる協働学習を通じて、多面的かつ常識に囚われずに創発的な議論を通じて「知」を組み合わせ、新たな価値の創出に関与していく能力の獲得を目指すことにしており、大学教育、企業教育の壁を越えたＩＣＴを駆使した２１世紀型の教育モデルを構想している。平成２３年度に実施した加盟大学へのアンケート意見では、概ね賛同が３割、具体化を見ないと判断できないが６割で不安視する声も多かった。その際、「具体的テーマの設定」、「大学教育との関わり方」、「ネット学習に対面学習を加える」、「事業に伴う費用負担の問題」、「ロボットコンテストのようなゲーム性を入れる」などの意見があった。

（２）構想内容についての意見交換

構想について見直しを含めた具体的な検討を開始し、平成２６年度に課題の洗い出しと取り組みを整理し、平成２７年度に構想案を再構築することにした。課題については、大学・企業による人的支援の確保、ＪＭＯＯＣによる反転授業の活用の可能性やスマホ利用などのＩＣＴ環境変化への対応、異なる分野の人を説得できるレベルなど分野横断した学びの仕組み、協会で実施する場合はパイロット授業のモデル実験をイメージ、プロジェクトチームによるコンテストの開催、モノづくりや株価予想コンテストなどテーマは解のないものとする、若者に夢を持たせる取り組み、などの意見があり、内容の詳細化、具体化に向けて継続して検討を進めることにしている。